

1. 事業の位置付け

事務事業名	ノンステップバス推進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	公共交通移動円滑化設備整備費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	2008 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
誰もがバスに楽に乗り降りでき、平塚駅や周辺の目的地への移動の利便性・安全性が向上し、自立した日常生活を送っています。		バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、ノンステップバスの協調補助制度を導入し、市内を運行するバス車両のバリアフリー化を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ノンステップバス導入台数				単位	台
	説明・算定式	(H20年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	5	5	5		
	実績	—	5	4	5		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	ノンステップバス導入率				単位	%
	説明・算定式	平成28年までにバス全体の30%をノンステップバスとした場合の導入率(H20年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	3	6	9		
	実績	—	3	5.5	9		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるモビリティ整備を望む声は多く、国の補助制度と連携し、ノンステップバスの導入を促進する必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがバスに楽に乗り降りでき、バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図り、誰もが快適に暮らせるまちを目指すためには有効な事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	国が定める基本方針ではバス車両に関し、平成28年までに低床化されたバスに切り替えることとし、さらにそのうちの20%から30%をノンステップバスとすることを目標としているため妥当性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対し、平塚市バス利用促進等総合対策事業補助金交付要綱による補助を行い、効率的な導入を図っています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	ノンステップバス導入の 支援	ノンステップバス導入の 支援	ノンステップバス導入の 支援
財源内訳	国庫支出金	—	0	0	0
	県支出金	—	0	0	0
	起債	—	0	0	0
	その他 特財	—	0	0	0
	一般財源	—	5,766	7,600	6,650
事業費 (A)		—	5,766	7,600	6,650
執行率 (%)		—	57.66	76.00	87.50
内訳	職員 (人)	—	0.25	0.15	0.14
	再任用 (人)	—	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		—	2,098	1,254	1,157
フルコスト (A+B)		—	7,864	8,854	7,807

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	①:予定どおり	②:若干遅れている	①:予定どおり
		—	—	平成21年度は、国との協調補助の調整率が満額であったため予算の範囲での執行となった。	—
主な取組と成果		—	国との協調補助により予定の5台が導入できました。	国との協調補助により、ノンステップバス4台の導入に対し補助いたしました。	国との協調補助により、ノンステップバス5台の導入に対し補助しました。
検証結果		—	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っており、今後計画的な導入が図られるかが、課題となる。	近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っています。今後も、協調補助により計画的な導入が図られるよう国との連携を密にします。	国の予算配分において調整率が変動することにより、当初予定していた台数が導入できないことがあるため、国及びバス事業者との情報を密にして効率的な導入を図る必要があります。	国の補助制度の変更による、「平塚市バス利用促進等総合対策事業補助金交付要綱」の改正や国が定めるバリアフリー新法の基本方針の見直しを注視し、バス事業者との情報を密にして効率的な導入を図る必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	バス利用促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	0	事業期間	2010 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
路線バスの走行環境が改善され、市民のバス利用者が増加しています。		バス停での待合環境向上のため、リアルタイムの運行状況の提供を促進します。また、定時性や速達性の向上のため、バス優先レーン等の取組を検討します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	バスロケーションシステム導入進捗率				単位	%
	説明・算定式	H22:バスロケーションシステム導入100%(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	—	—	—	100	100	
成果指標②	指標名	バス優先レーン等導入検討進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成24年度を100%とした事業進捗率。H22:協議会立上げ20%、H23:バス専用レーン化等の導入検討40%、H24:導入計画の策定400%(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	—	—	—	20	0	

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平成20年に行ったアンケート結果によれば、バス停の待合環境(40%)や運行の定時制・速達性(42%)などの向上が望まれています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	バス停の待合環境や運行の定時制・速達性の向上は、バスの利用を促進し、平塚市総合交通計画でめざすまちの具現化につなげる有効な事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	中心市街地への自家用車の流入を抑制し、環境にやさしいまちづくりを進めるためには、公共交通の利便性向上を図る必要があります、その目的や内容に妥当性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国との協調補助の活用など、事業者、国、市それぞれの適正な役割分担と負担のもと効率よく進めていく事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	—	—	バスロケーションシステムの導入
財源内訳	国庫支出金	—	—	—	0
	県支出金	—	—	—	0
	起債	—	—	—	0
	その他 特財	—	—	—	0
	一般財源	—	—	—	10,150
事業費 (A)		—	—	—	10,150
執行率 (%)		—	—	—	95.27
内訳	職員 (人)	—	—	—	0.37
	再任用 (人)	—	—	—	0.00
人件費 (B)		—	—	—	3,056
フルコスト (A+B)		—	—	—	13,206

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	—	—	③:遅れている バス優先レーン等の検討に時間を有している。
	主な取組と成果	—	—	—	バスの位置情報を収集し、携帯電話やパソコンにバスが現在どこにいるか等の情報を利用者に提供する「バスロケーションシステム」の導入を平塚市域の路線バス116台に導入した。
検証結果		—	—	—	C :十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		—	—	バス利用を促進するためには、バス優先レーンや待合環境の向上など様々な施策を複合的に組み合わせた効率的な事業展開が重要です。	バス利用を促進するためには、バス優先レーンや待合環境の向上など様々な施策を複合的に組み合わせた効率的な事業展開が必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	幹線道路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
幹線道路を整備することにより、交通混雑の緩和が図られるとともに、地域の住環境も向上しています。		住環境の向上と交通の円滑化のため、幹線道路を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
成果指標①	指標名	幹線道路整備進捗率				単位 %
	説明・算定式	平成28年度までの整備累計(1,008m)に対する当該年度までの整備累計の率(H22年度から設定)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	—	—	—	0	0
成果指標②	指標名	幹線道路用地買収進捗率				単位 %
	説明・算定式	平成27年度までの用地買収累計(1,539㎡)に対する当該年度までの用地買収累計の率(H22年度から設定)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	—	—	—	15	15
成果指標③	指標名	3か年の用地買収進捗率				単位 %
	説明・算定式	H19年度:用地買収等32%、H20年度:用地買収等24%、H21年度:用地買収等44%(H21年度まで評価)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	32	56	100	—	—

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡することになり、地域の骨格を形成する幹線道路の整備の必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	幹線道路を整備することで交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		用地買収、測量設計	用地買収、測量設計	用地買収、測量設計	用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	27,000
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	55,158	47,802	19,711	24,701
事業費 (A)		55,158	47,802	19,711	51,701
執行率 (%)		80.60	62.45	31.08	86.91
内訳	職員 (人)	0.85	0.45	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	3,776	6,267	6,195
フルコスト (A+B)		62,291	51,578	25,978	57,896

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	金目・神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行った。真土・金目線の拡幅計画について、地元説明会を行った。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図った。	真土金目線の測量調査設計や金目神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。	真土金目線の用地買収や整備工事を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。	真土・金目線や河内・公所線の用地買収を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めたい。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	街路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③〈利便性〉誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
街路（都市計画道路）を整備することにより、交通混雑の緩和が図られるとともに、地域の住環境も向上しています。		住環境の向上と交通の円滑化のため、街路を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	街路整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成25年度までの指数累計に対する当該年度までの指数累計の率。北金目真田線(用地買収40、工事60)、五領ヶ台南線(用地買収50、工事50)(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	4 4		
成果指標②	指標名	3か年の用地買収進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19年度:用地買収60%、H20年度:用地買収・街路整備6%、H21年度:用地買収・街路整備34%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	60 60	66 60	100 60	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡し、かつ、地域の骨格を形成する都市計画道路の整備の必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市計画道路を整備することで、周辺地域の交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		仮設道路賃借料	用地買収・街路整備	用地買収・街路整備	用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	0	8,936	7,150	3,135
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	2,783	99,987
	一般財源	1,177	12,742	53,975	735
事業費 (A)		1,177	21,678	63,908	103,857
執行率 (%)		19.05	56.25	25.74	47.40
内訳	職員 (人)	1.40	0.80	0.85	0.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		11,748	6,713	7,103	7,021
フルコスト (A+B)		12,925	28,391	71,011	110,878

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	③: 遅れている 地権者との用地買収交渉に不測の期間を要したため。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	平塚山下線の測量調査委託(繰越)や、五領ヶ台南線の用地買収交渉を行った。これらの活動を通じて、事業進捗を図った。	平塚山下線の整備や、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進められた。	平塚山下線の整備や北金目真田線、東海大学前駅真田線、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進めました。	東海大学前駅真田線、北金目真田線の用地買収や物件移転補償の他、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進めました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	C: 十分に成果をあげることができなかった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めたい。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。